

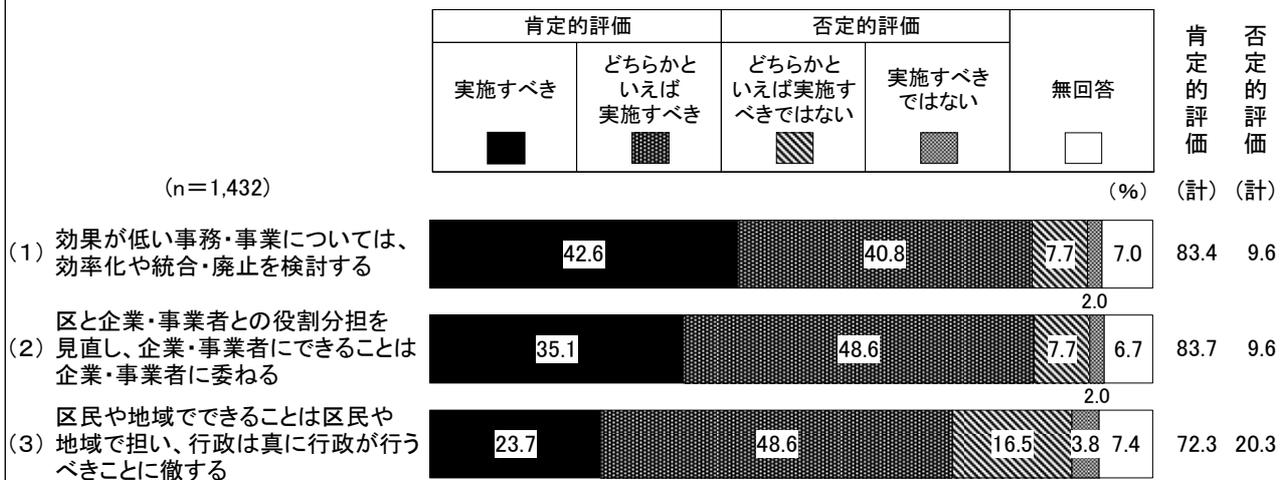
2 区政改革について

(1) 区民サービスのあり方

◇「区と企業・事業者との役割分担を見直し、企業・事業者にできることは企業・事業者に委ねる」で『肯定的評価』が8割を超える

問17 人口構成をはじめ社会経済状況の変化を踏まえ、限られた財源の中で、区民サービスのあり方を見直す必要があります。例として以下のような方策が考えられます。あなたは、どのように考えますか。(各項目 ○は1つ)

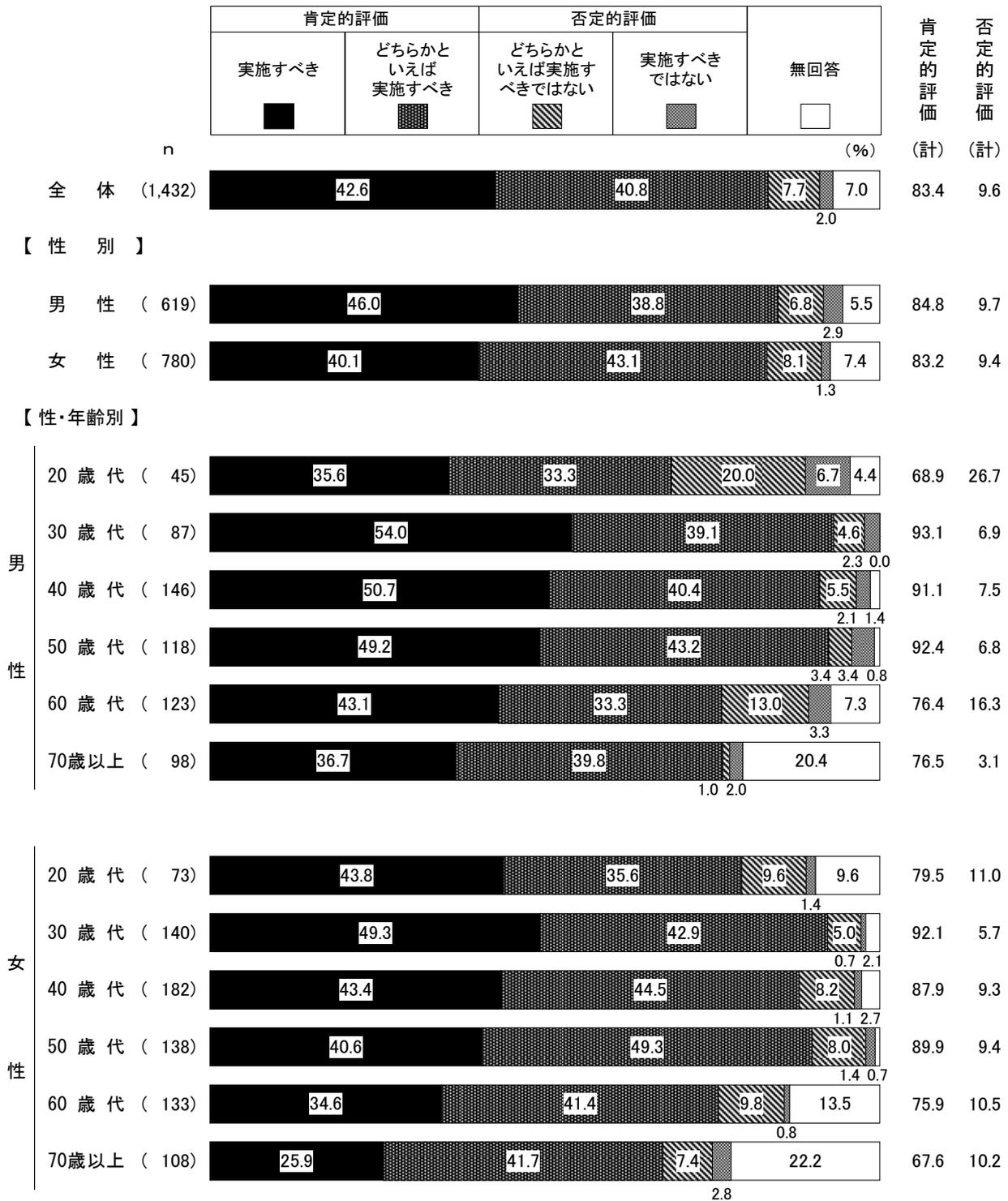
図2-1-1 区民サービスのあり方



区民サービスのあり方について聞いたところ、「効果が低い事務・事業については、効率化や統合・廃止を検討する」と「区と企業・事業者との役割分担を見直し、企業・事業者にできることは企業・事業者委ねる」では、『肯定的評価』が8割を超え、『否定的評価』は約1割となっている。また、「区民や地域でできることは区民や地域で担い、行政は真に行政が行うべきことに徹する」では、『肯定的評価』が7割を超え、『否定的評価』が2割となっている。(図2-1-1)

図 2-1-2 区民サービスのあり方

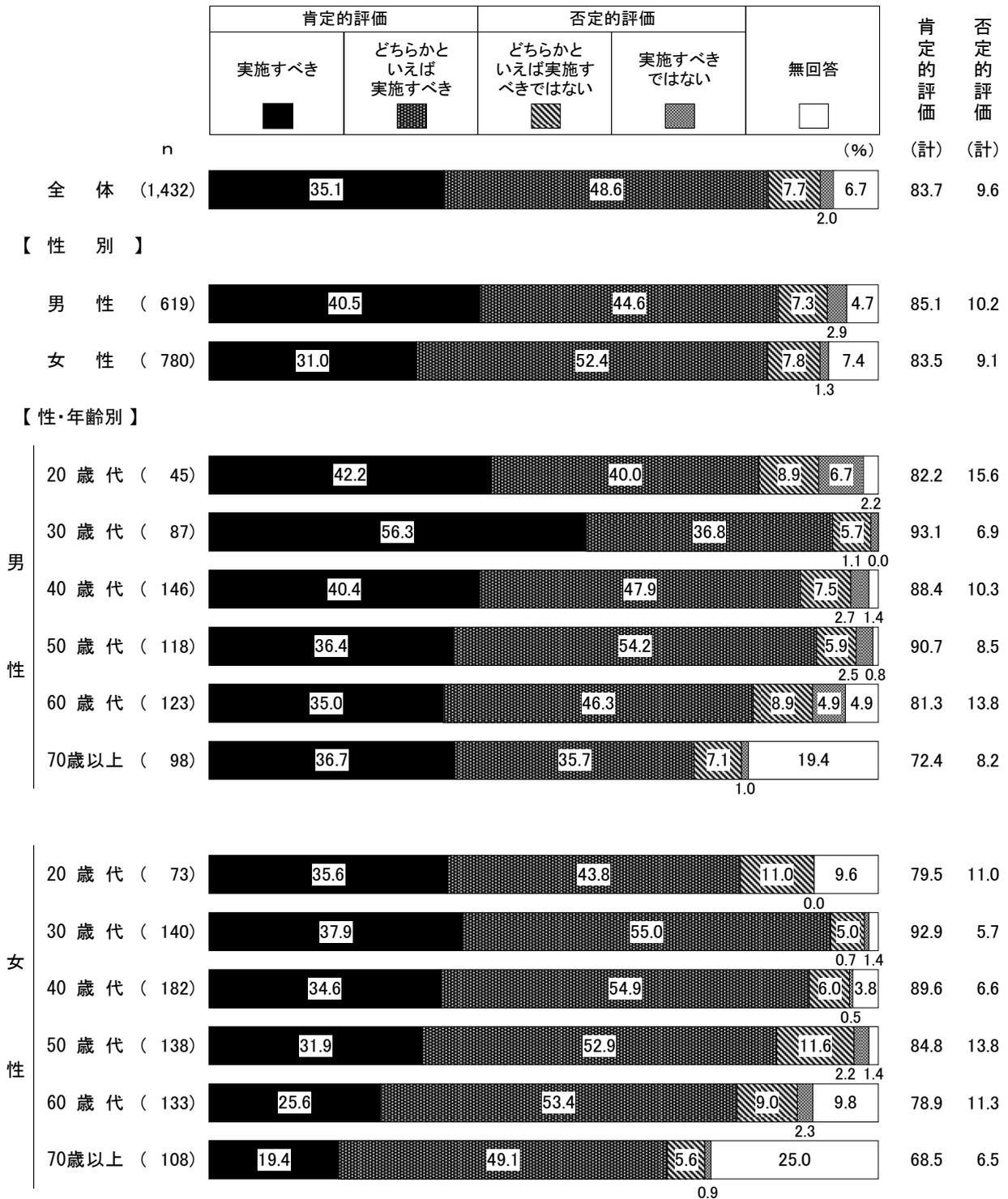
(1) 効果が低い事務・事業については、効率化や統合・廃止を検討する—性別、性・年齢別



性・年齢別にみると、『肯定的評価』は男性の30歳代から50歳代と女性30歳代で9割を超えて多くなっている。『否定的評価』は男性20歳代で3割近くと多くなっている。(図 2-1-2)

図2-1-3 区民サービスのあり方

(2) 区と企業・事業者との役割分担を見直し、企業・事業者にはできることは企業・事業者委ねる
 一性別、性・年齢別

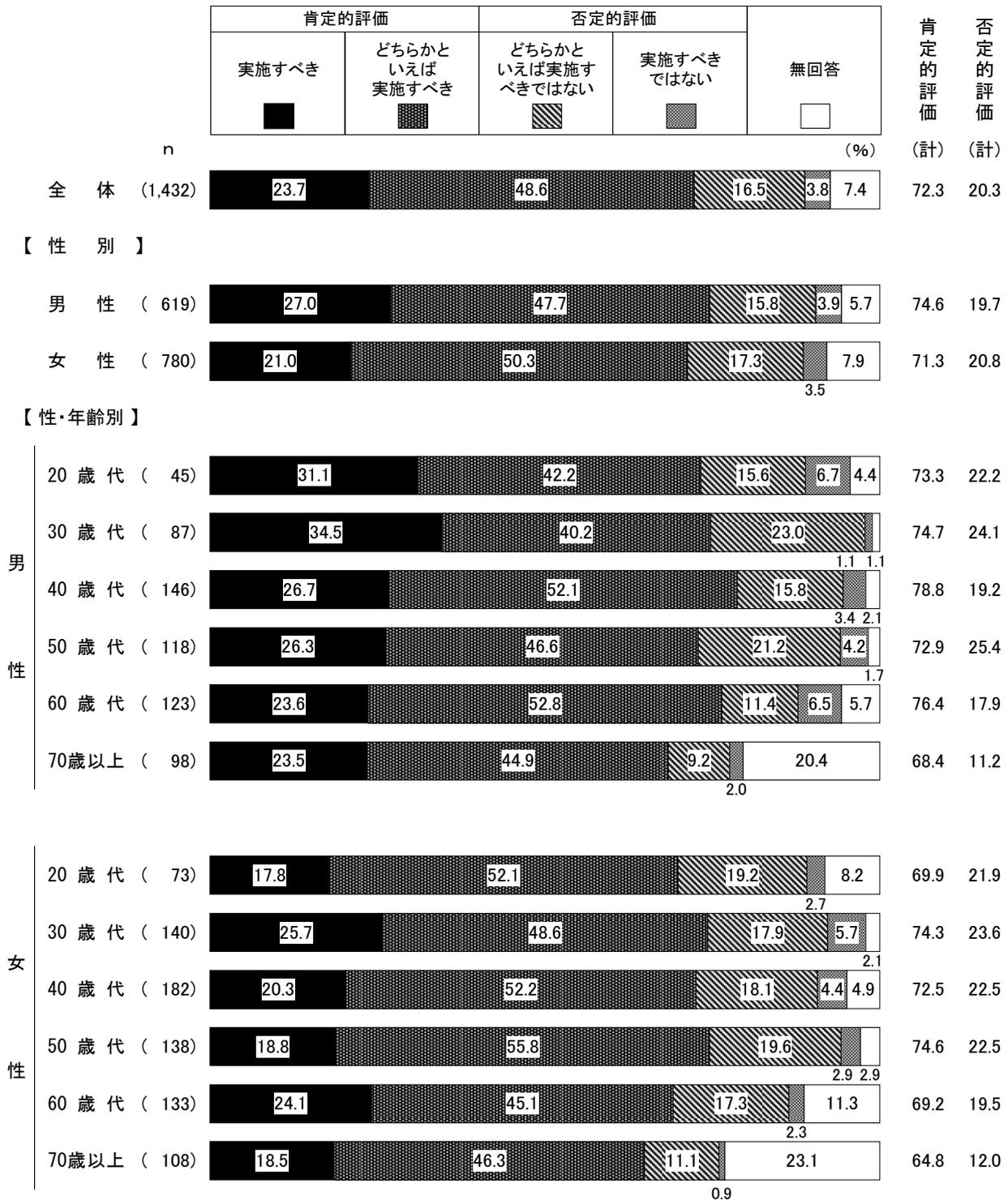


性・年齢別にみると、『肯定的評価』は男性の30歳代と50歳代、女性30歳代で9割台と多くなっている。(図2-1-3)

図2-1-4 区民サービスのあり方

(3) 区民や地域でできることは区民や地域で担い、行政は真に行政が行うべきことに徹する

—性別、性・年齢別



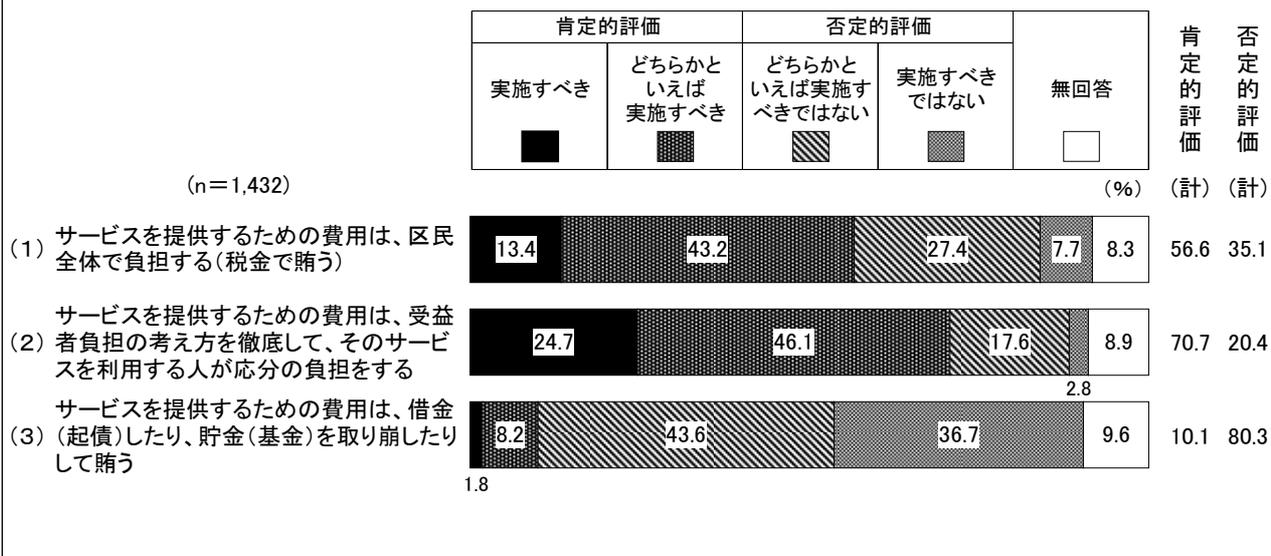
性・年齢別にみると、『肯定的評価』は男性40歳代で8割近くと多くなっている。『否定的評価』は男性の30歳代と50歳代で2割半ばと多くなっている。(図2-1-4)

(2) サービスを提供するための費用の確保

◇「サービスを提供するための費用は、受益者負担の考え方を徹底して、そのサービスを利用する人が応分の負担をする」で『肯定的評価』が7割

問18 今後は、必要なサービスを提供していくための費用を確保するには、以下のような方策が考えられます。あなたは、どのように考えますか。(各項目 ○は1つ)

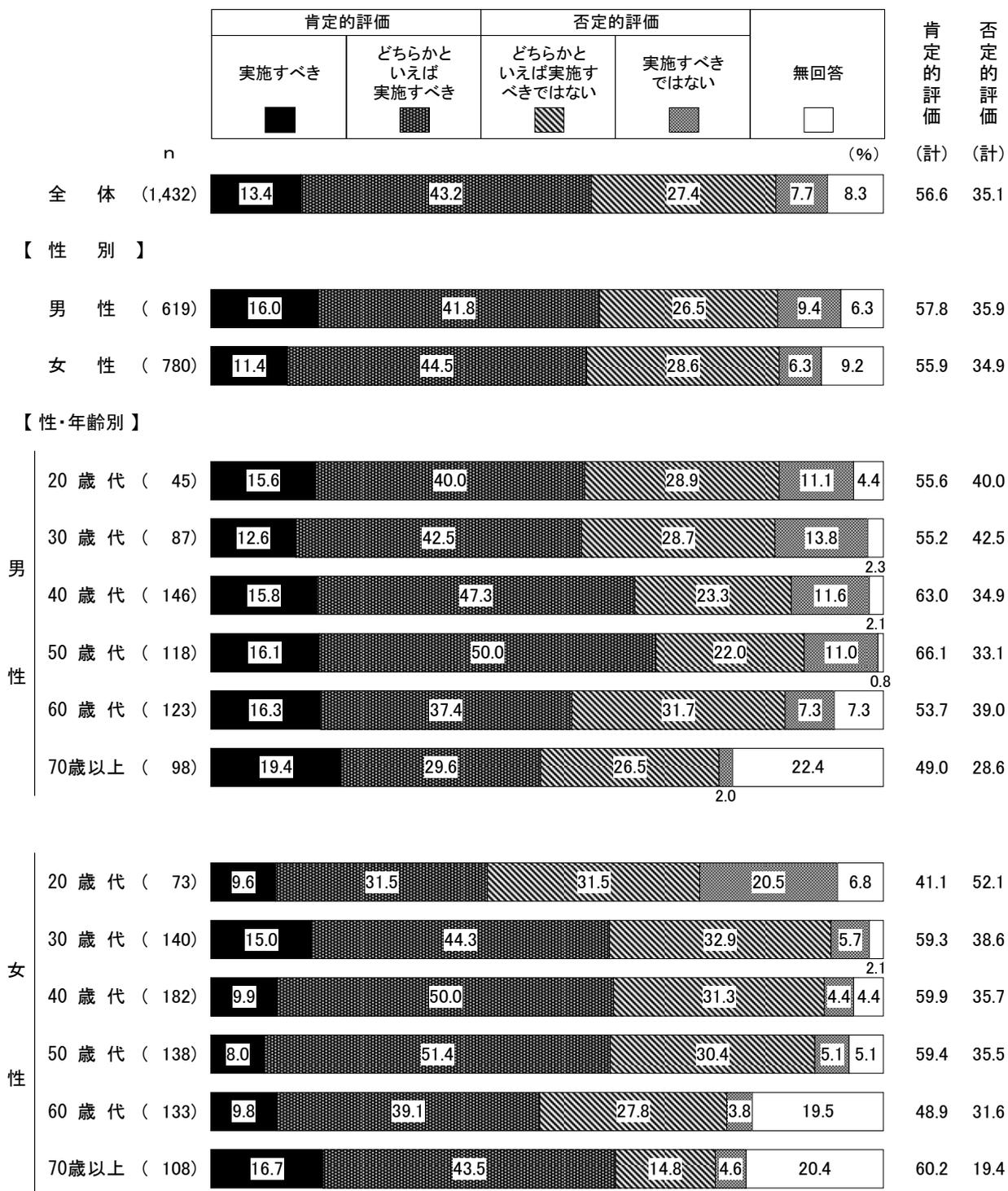
図2-2-1 サービスを提供するための費用の確保



サービスを提供するための費用の確保について聞いたところ、「サービスを提供するための費用は、区民全体で負担する(税金で賄う)」では、『肯定的評価』が5割以上で、『否定的評価』は3割を超えている。「サービスを提供するための費用は、受益者負担の考え方を徹底して、そのサービスを利用する人が応分の負担をする」では、『肯定的評価』がほぼ7割で、『否定的評価』は2割となっている。「サービスを提供するための費用は、借金(起債)したり、貯金(基金)を取り崩したりして賄う」では、『肯定的評価』が1割で、『否定的評価』が8割となっている。(図2-2-1)

図 2-2-2 サービスを提供するための費用の確保

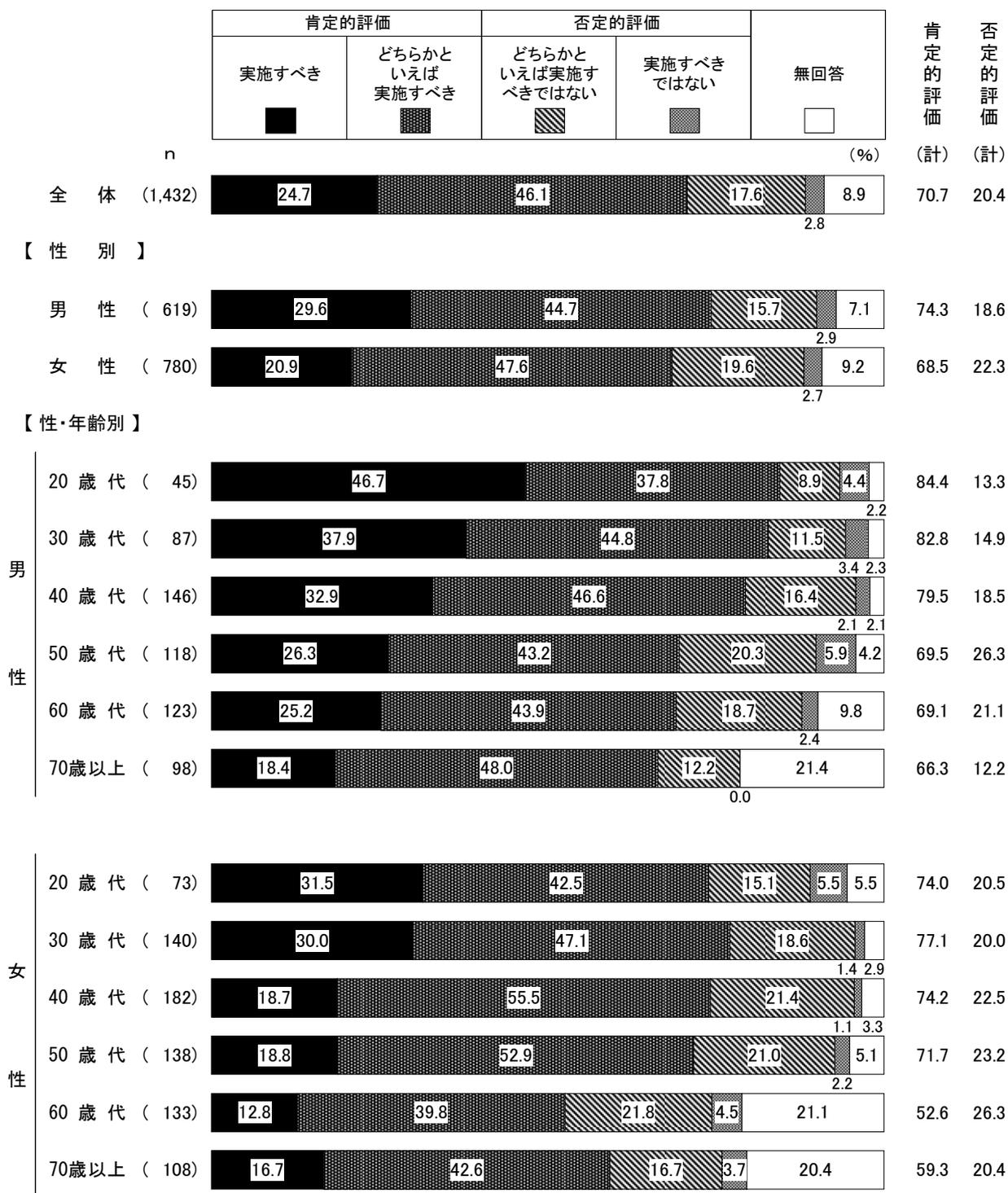
(1) サービスを提供するための費用は、区民全体で負担する（税金で賄う）—性別、性・年齢別



性・年齢別にみると、『肯定的評価』は男性の40歳代と50歳代、女性70歳以上で6割台と多くなっている。『否定的評価』は女性20歳代で5割を超えて多くなっている。(図 2-2-2)

図 2-2-3 サービスを提供するための費用の確保

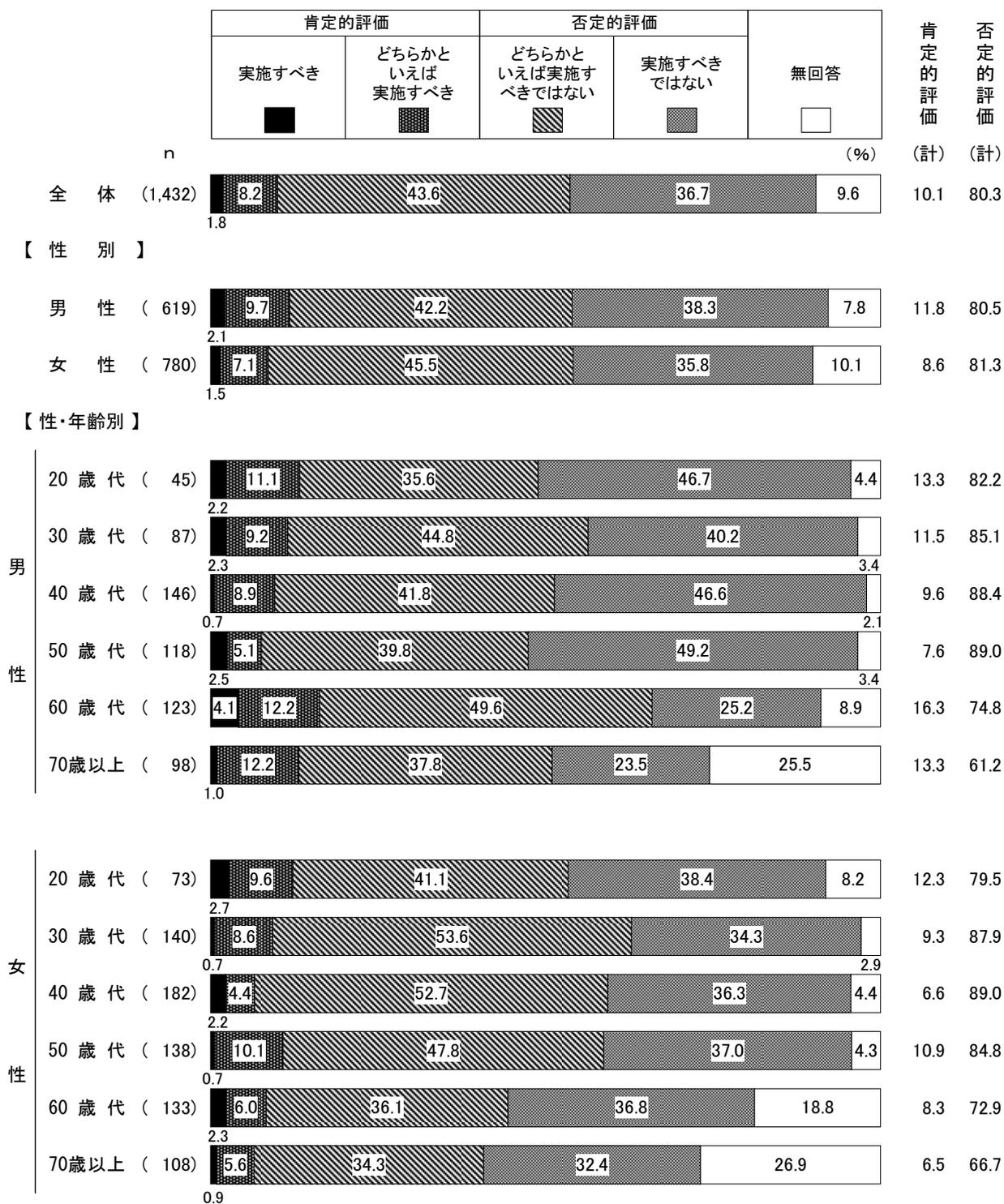
(2) サービスを提供するための費用は、受益者負担の考え方を徹底して、そのサービスを利用する人が応分の負担をする—性別、性・年齢別



性・年齢別にみると、『肯定的評価』は男性の20歳代と30歳代で8割台と多くなっている。『否定的評価』は男性50歳代と女性60歳代で2割半ばと多くなっている。(図 2-2-3)

図 2-2-4 サービスを提供するための費用の確保

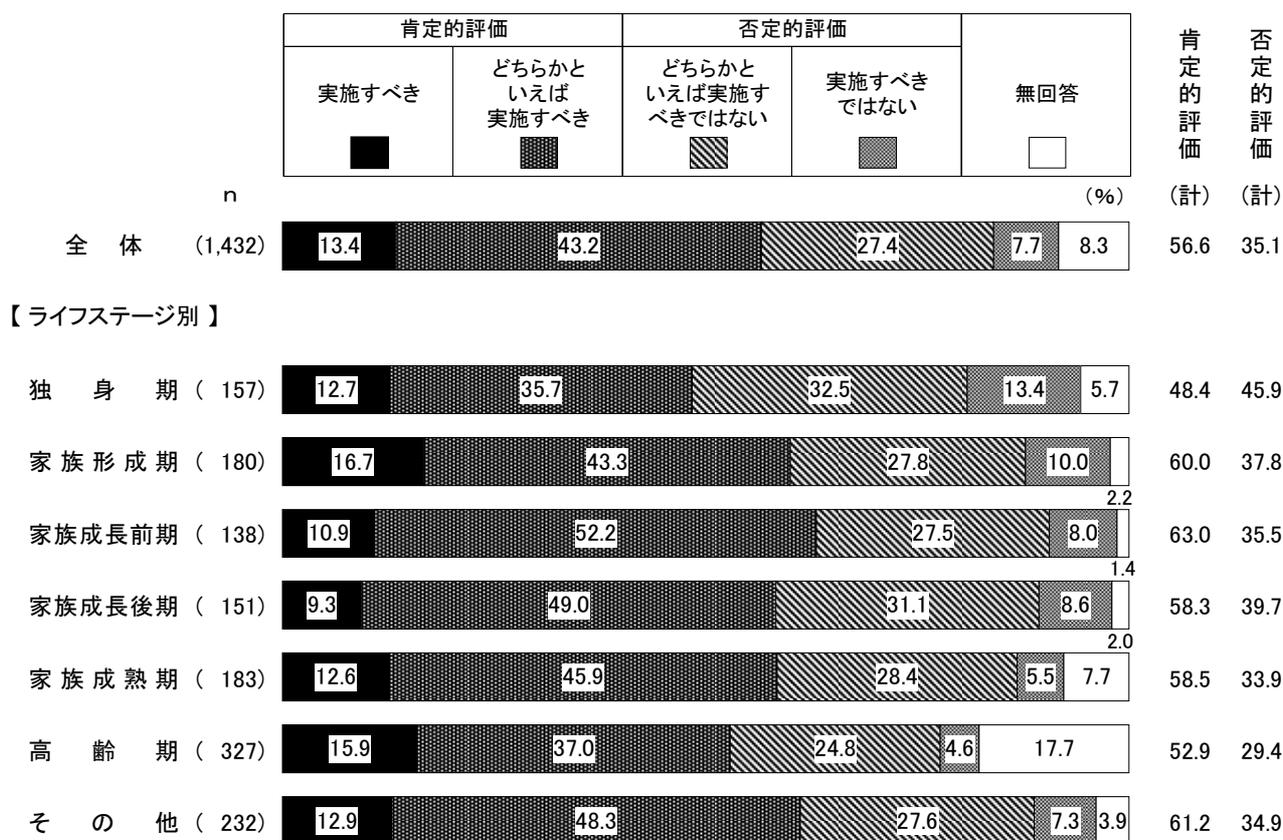
(3) サービスを提供するための費用は、借金（起債）したり、貯金（基金）を取り崩したりして賄う
 ー性別、性・年齢別



性・年齢別にみると、『肯定的評価』は男性60歳代で1割半ばとなっている。『否定的評価』は男性50歳代と女性40歳代でほぼ9割と多くなっている。(図 2-2-4)

図 2-2-5 サービスを提供するための費用の確保

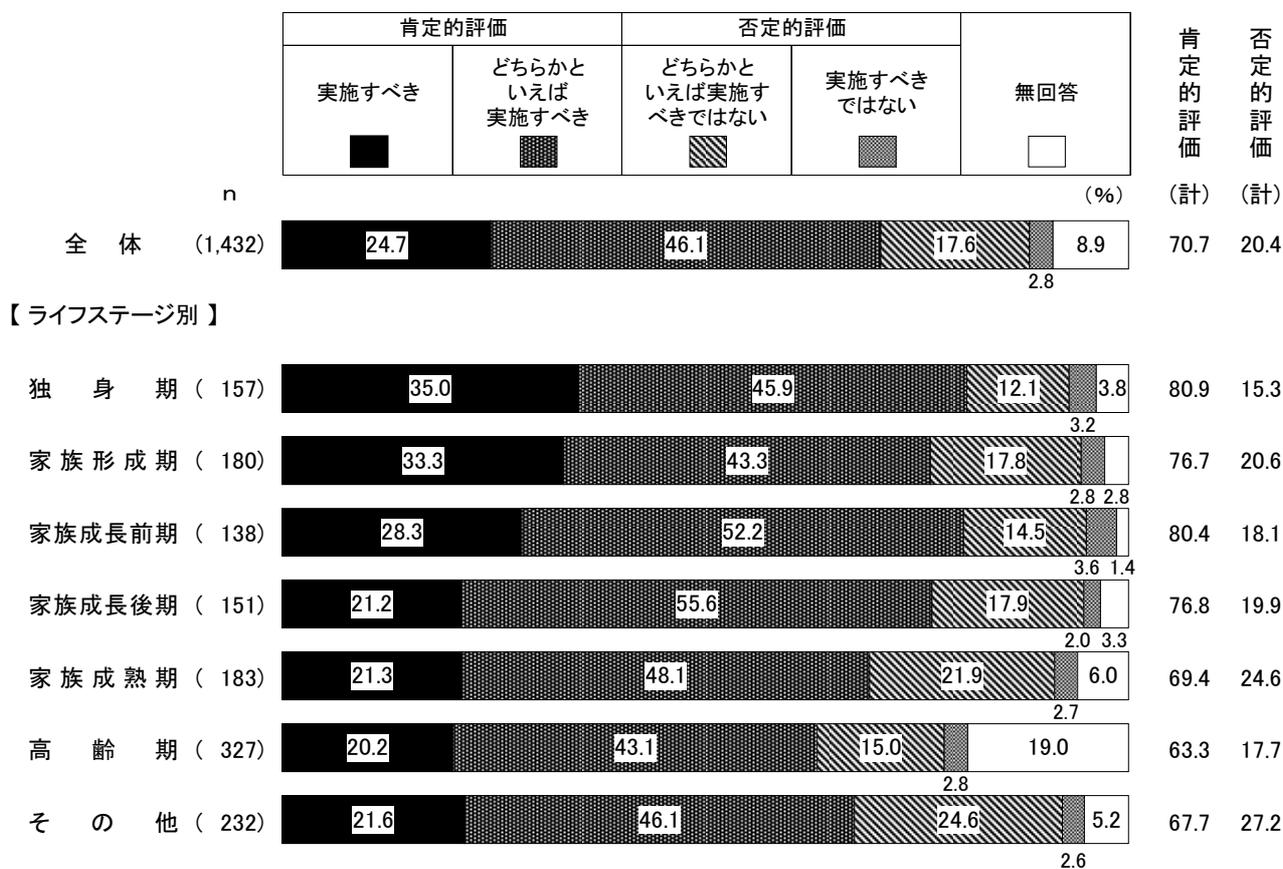
(1) サービスを提供するための費用は、区民全体で負担する（税金で賄う）－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、『肯定的評価』は家族成長前期、その他、家族形成期で6割台と多くなっている。『否定的評価』は独身期で4割半ばと多くなっている。(図 2-2-5)

図 2-2-6 サービスを提供するための費用の確保

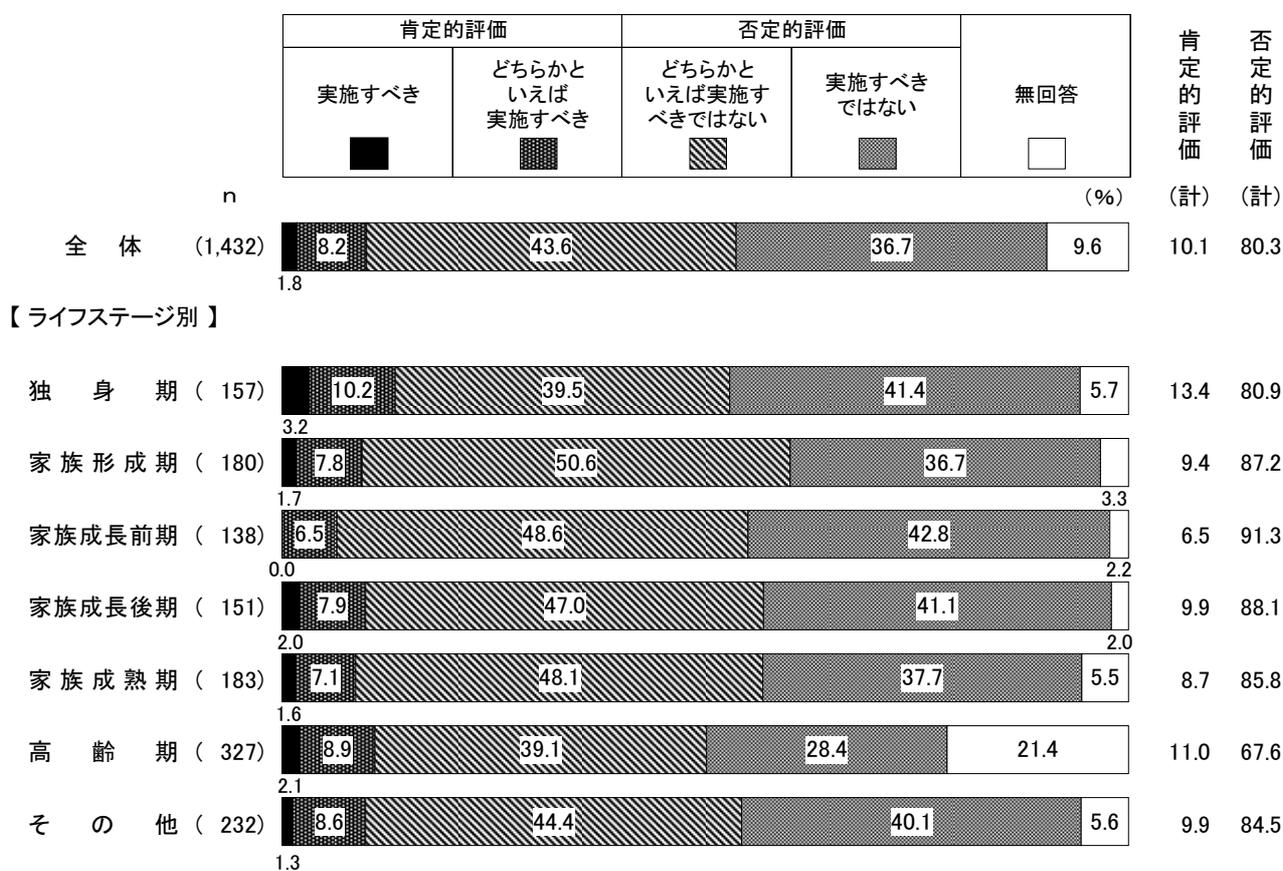
(2) サービスを提供するための費用は、受益者負担の考え方を徹底して、そのサービスを利用する人が応分の負担をする—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、『肯定的評価』は独身期と家族成長前期でほぼ8割と多くなっている。『否定的評価』はその他で3割近く、家族成熟期で2割半ばと多くなっている。(図 2-2-6)

図 2-2-7 サービスを提供するための費用の確保

(3) サービスを提供するための費用は、借金（起債）したり、貯金（基金）を取り崩したりして賄う
ーライフステージ別



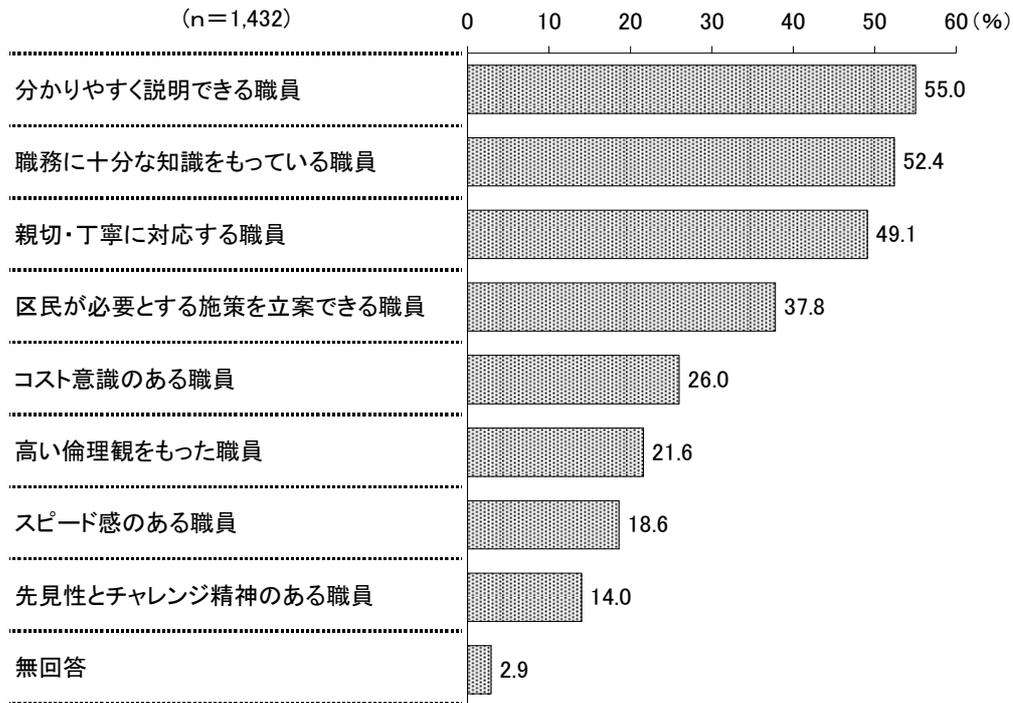
ライフステージ別にみると、『肯定的評価』は独身期と高齢期で1割を超えている。『否定的評価』は家族成長前期で9割を超え、家族成長後期と家族形成期で9割近くと多くなっている。(図 2-2-7)

(3) 求める職員像

◇「分かりやすく説明できる職員」が5割半ば

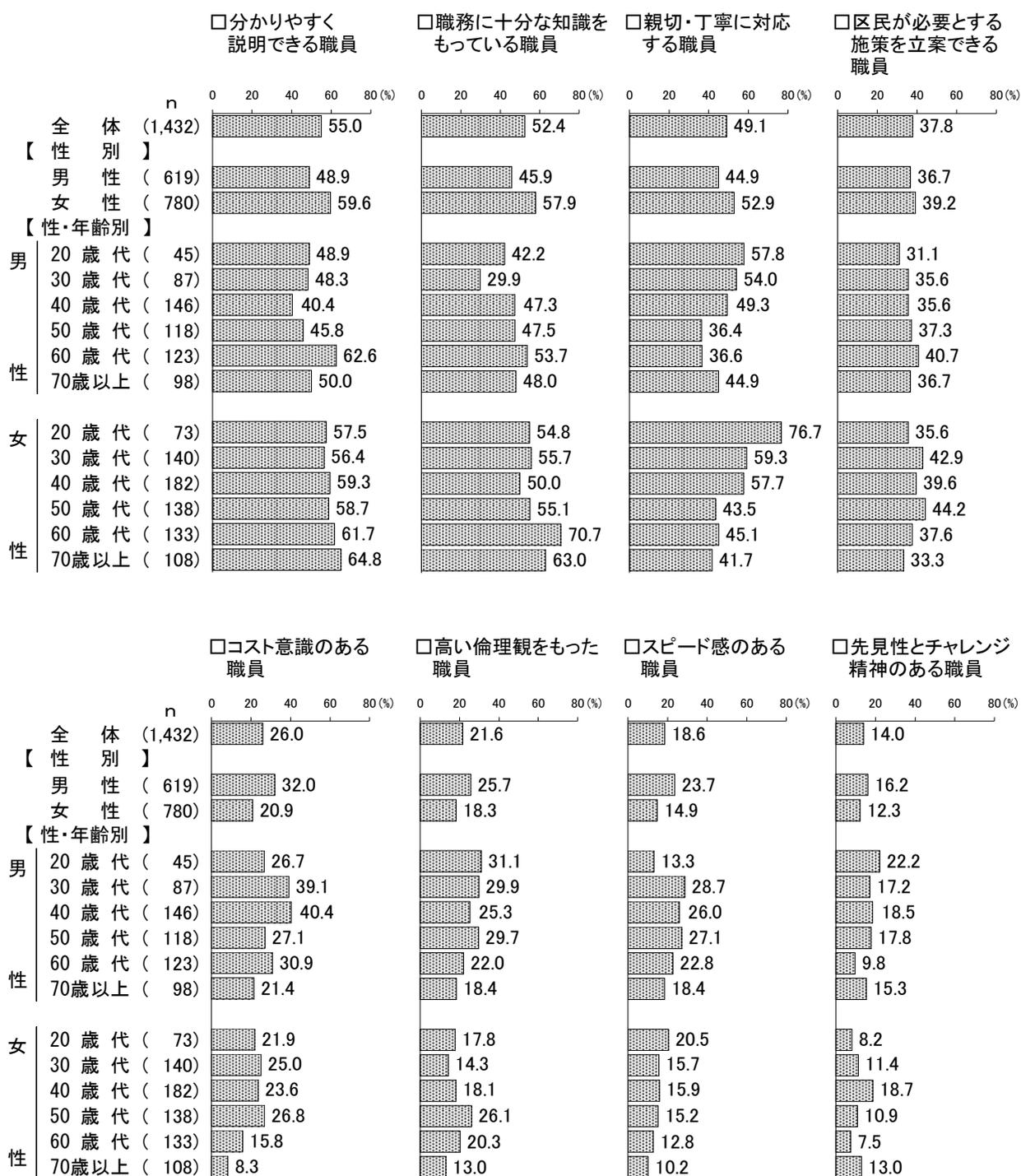
問19 区政改革を推進するため、職員の意識を住民本位の姿勢にあらためていきたいと考えています。あなたが求める職員像について、教えてください。(〇は3つまで)

図2-3-1 求める職員像



求める職員像について聞いたところ、「分かりやすく説明できる職員」(55.0%)が5割半ばで最も多く、次いで「職務に十分な知識をもっている職員」(52.4%)、「親切・丁寧に対応する職員」(49.1%)、「区民が必要とする施策を立案できる職員」(37.8%)、「コスト意識のある職員」(26.0%)などの順になっている。(図2-3-1)

図 2-3-2 求める職員像—性別、性・年齢別



性別にみると、「職務に十分な知識をもっている職員」は女性の方が12.0ポイント、「分かりやすく説明できる職員」は女性の方が10.7ポイント、それぞれ高くなっている。「コスト意識のある職員」は男性の方が11.1ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「職務に十分な知識をもっている職員」は女性60歳代でほぼ7割と多くなっている。「親切・丁寧に対応する職員」は女性20歳代で8割近くと多くなっている。(図 2-3-2)

(4) 区立施設の老朽化問題の認知度

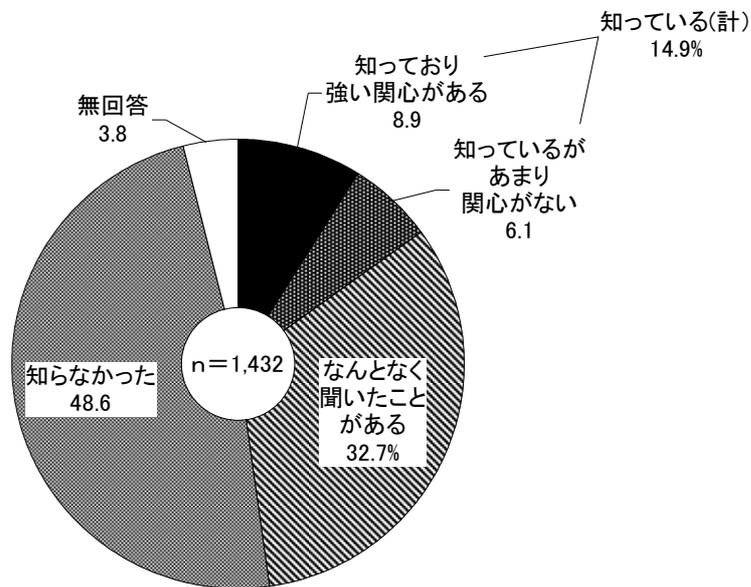
◇『知っている』は1割半ば

問20 練馬区では多くの区立施設が老朽化し、改築や大規模な改修が必要となる時期を迎えようとしています。「練馬区施設白書」(平成25年2月)では、平成27年度から36年度までの10年間に必要となる改修改築費用を約2,100億円と試算しました。

今後高齢化の進行に伴い社会保障費の増大が見込まれ、すべての区立施設を今までと同様に維持・更新していくのは極めて難しい状況です。これは、全国的に共通する問題であると言われています。

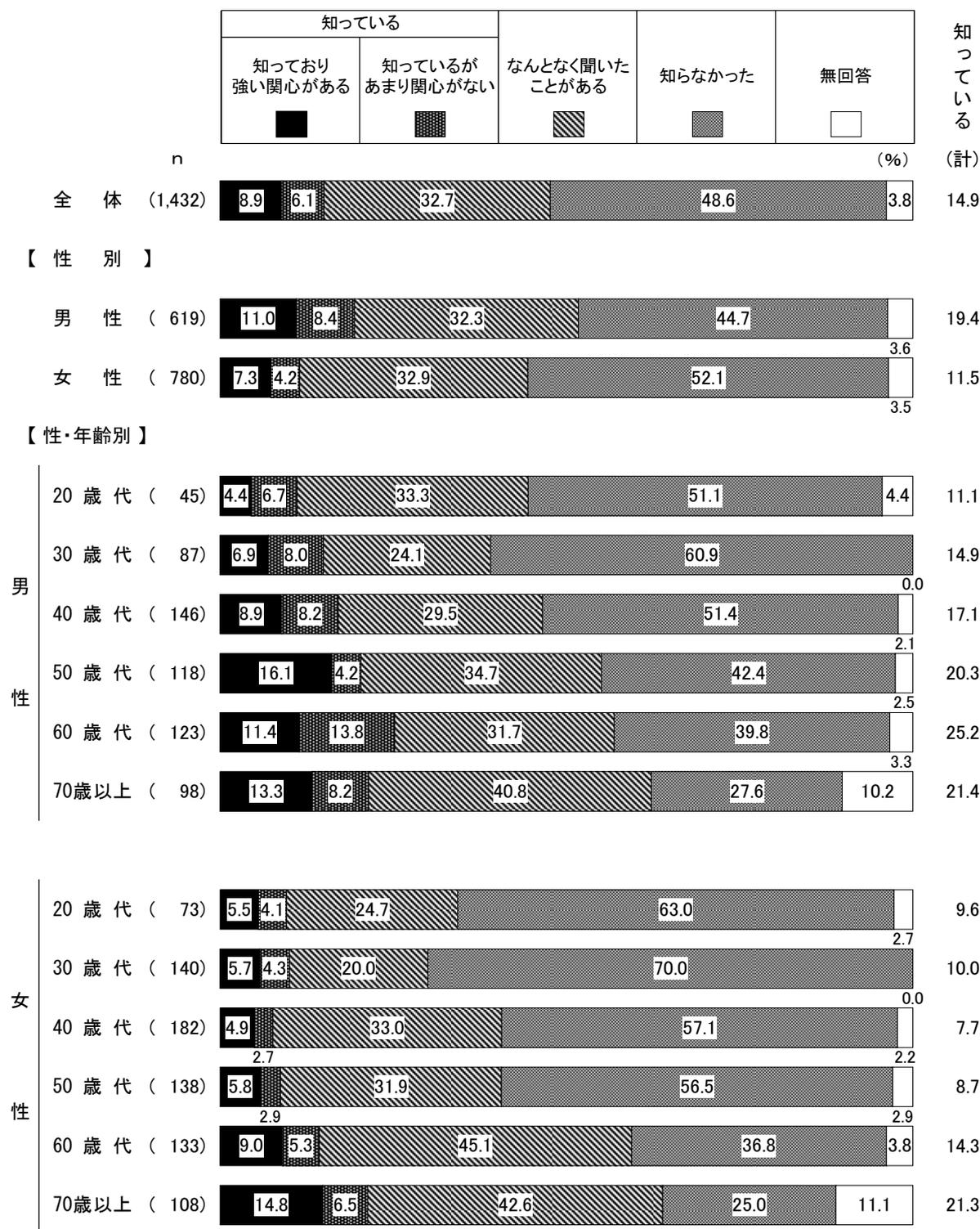
あなたは区の施設の老朽化問題をご存知でしたか。(○は1つ)

図2-4-1 区立施設の老朽化問題の認知度



区の施設の老朽化問題を知っていたか聞いたところ、「知っており強い関心がある」(8.9%)と「知っているがあまり関心がない」(6.1%)を合わせた『知っている』(14.9%)は1割半ばとなっている。「なんとなく聞いたことがある」(32.7%)が3割を超え、「知らなかった」(48.6%)は5割近くとなっている。(図2-4-1)

図 2-4-2 区立施設の老朽化問題の認知度—性別、性・年齢別



性・年齢別にみると、『知っている』は男性の50歳代以上の年代で2割台と多くなっている。「知らなかった」は女性30歳代で7割、女性20歳代と男性30歳代で6割台と多くなっている。(図2-4-2)

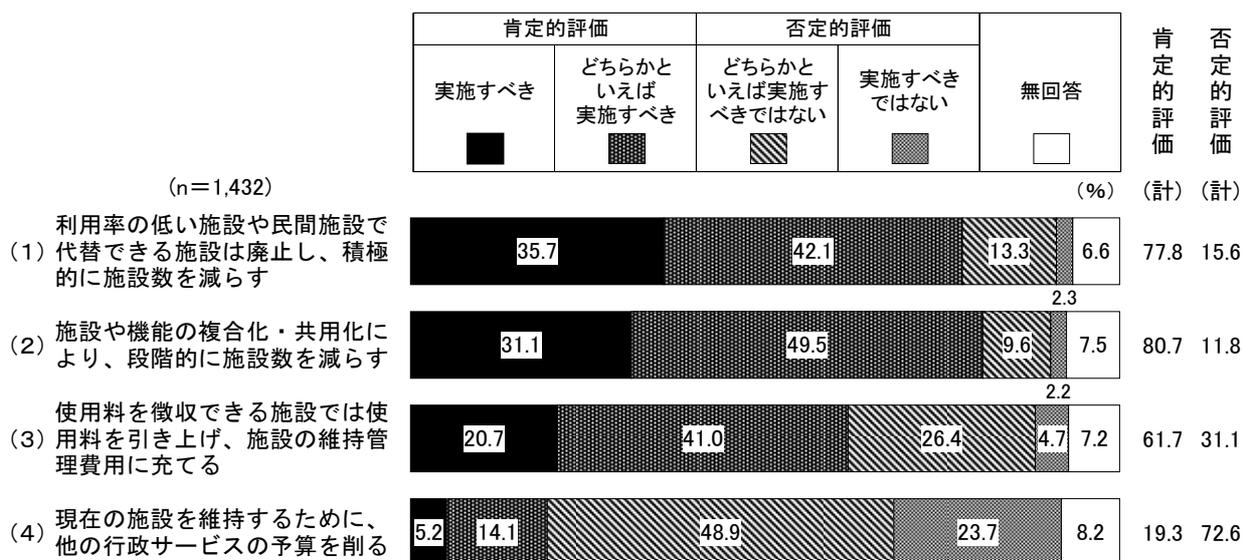
(5) 公共施設の老朽化問題についての考え

◇「施設や機能の複合化・共用化により、段階的に施設数を減らす」で『肯定的評価』が8割

問21 公共施設の老朽化問題へ対応するためには様々な視点から検討する必要があり、例として以下のような方策が考えられます。あなたは、どのように考えますか。

(各項目 ○は1つ)

図2-5-1 公共施設の老朽化問題についての考え

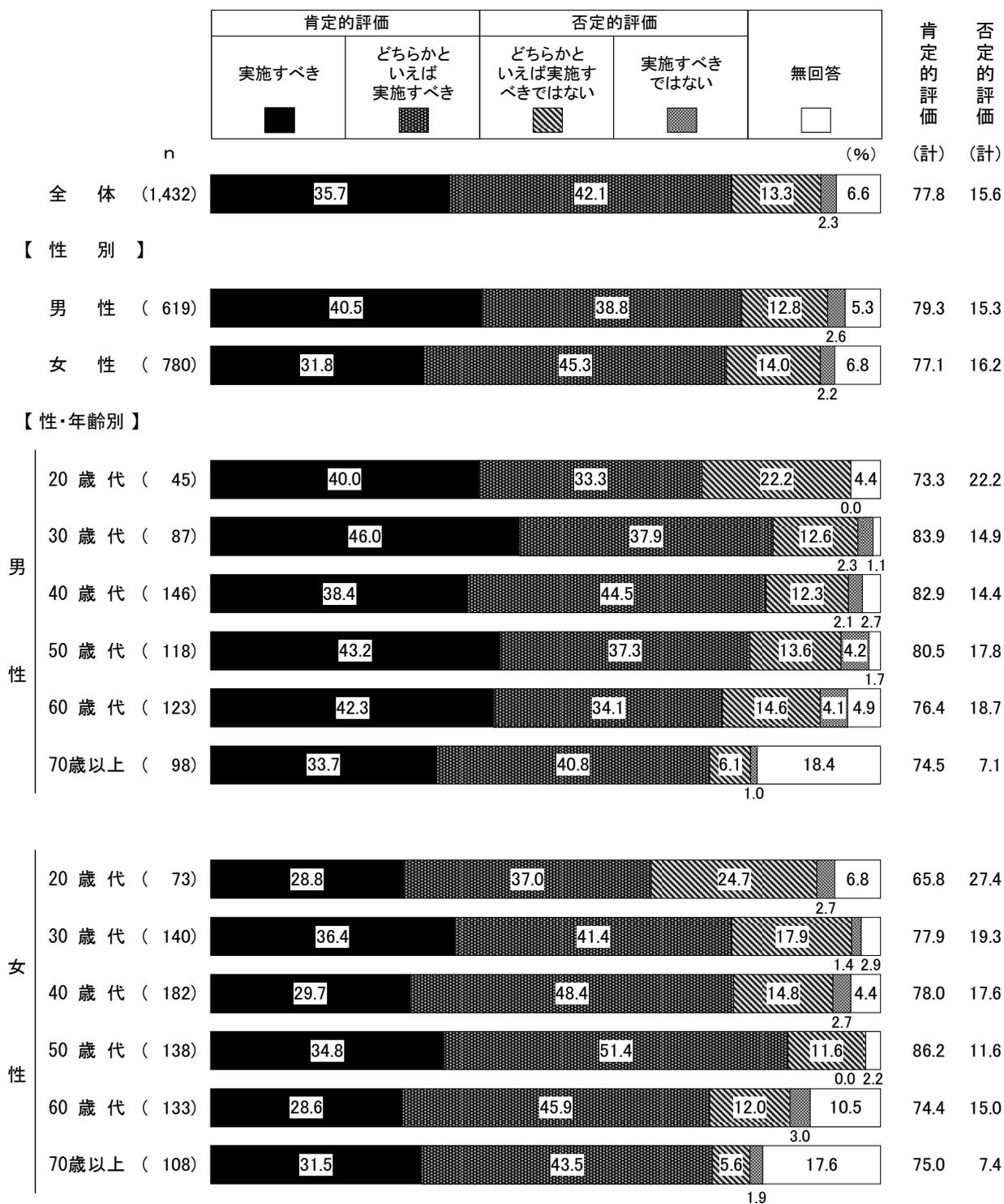


公共施設の老朽化問題について聞いたところ、「利用率の低い施設や民間施設で代替できる施設は廃止し、積極的に施設数を減らす」と「施設や機能の複合化・共用化により、段階的に施設数を減らす」では、『肯定的評価』がほぼ8割で、『否定的評価』が1割を超えている。「使用料を徴収できる施設では使用料を引き上げ、施設の維持管理費用に充てる」では、『肯定的評価』が約6割で、『否定的評価』が3割を超えている。「現在の施設を維持するために、他の行政サービスの予算を削る」では、『肯定的評価』が約2割で、『否定的評価』が7割を超えている。(図2-5-1)

図 2-5-2 公共施設の老朽化問題についての考え

(1) 利用率の低い施設や民間施設で代替できる施設は廃止し、積極的に施設数を減らす

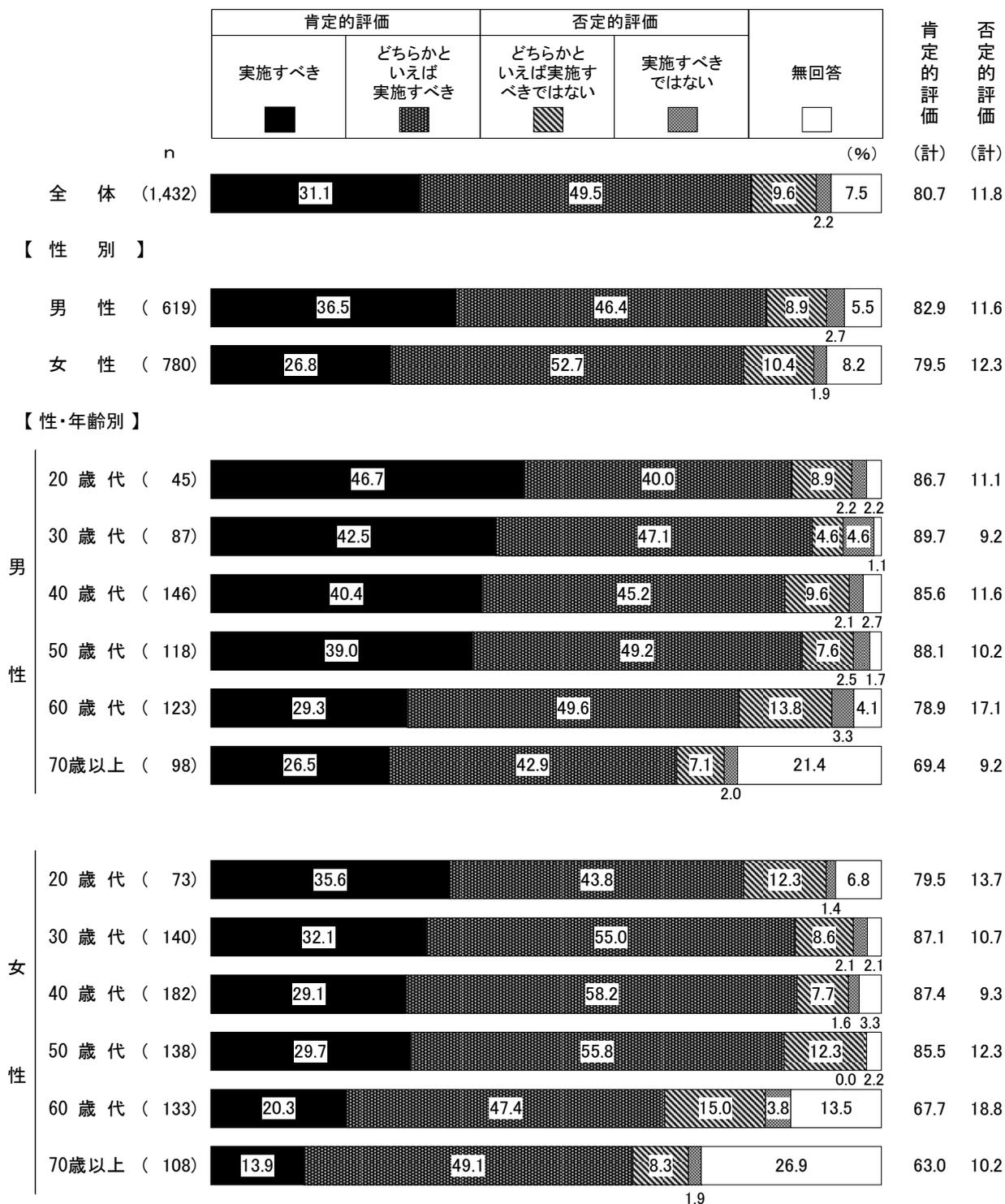
—性別、性・年齢別



性・年齢別にみると、『肯定的評価』は女性50歳代で8割半ばと多くなっている。『否定的評価』は女性20歳代で3割近くと多くなっている。(図2-5-2)

図 2-5-3 公共施設の老朽化問題についての考え

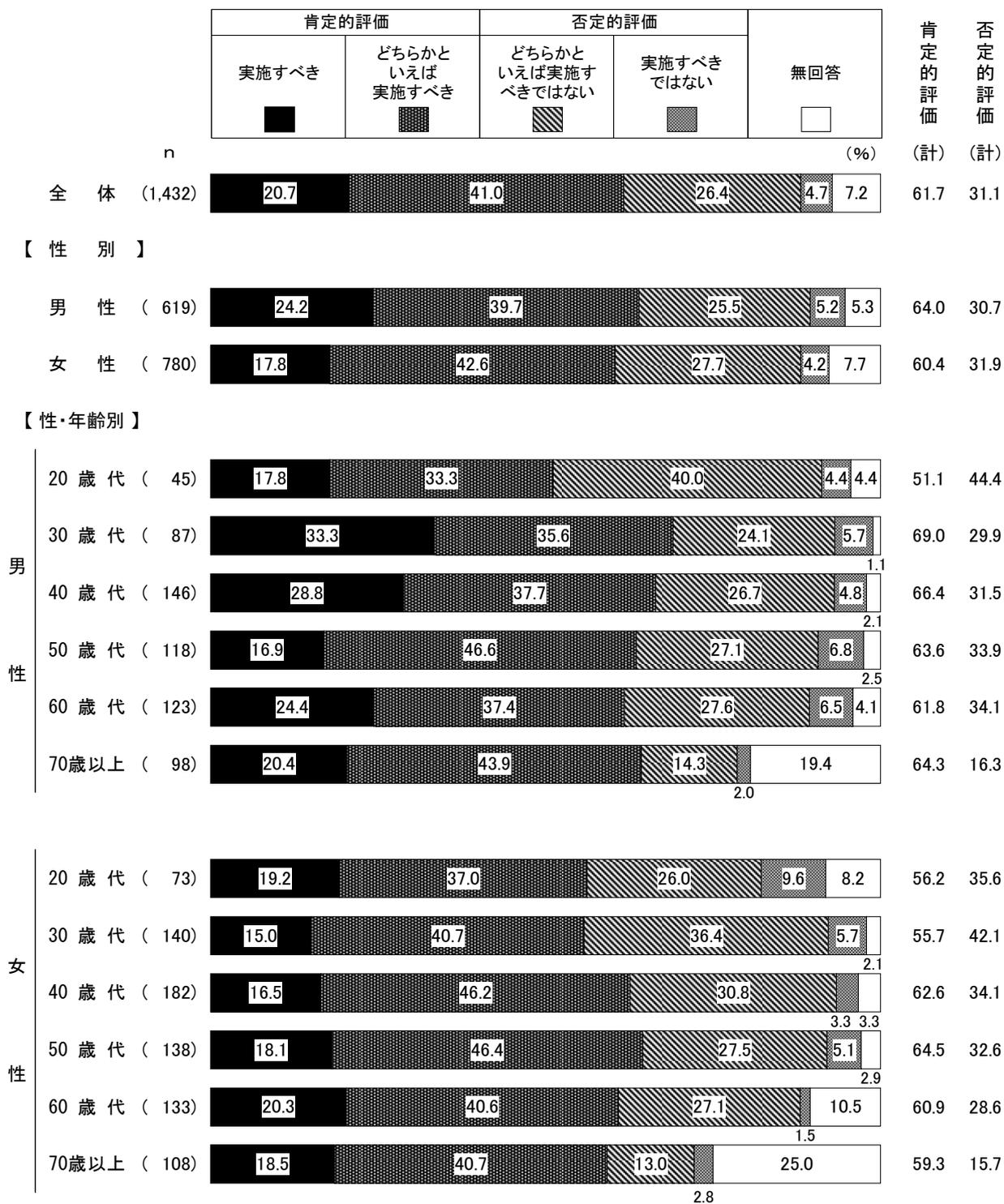
(2) 施設や機能の複合化・共用化により、段階的に施設数を減らす—性別、性・年齢別



性・年齢別にみると、『肯定的評価』は男性30歳代で9割と多くなっている。『否定的評価』は女性60歳代で2割近くと多くなっている。(図 2-5-3)

図 2-5-4 公共施設の老朽化問題についての考え

(3) 使用料を徴収できる施設では使用料を引き上げ、施設の維持管理費用に充てる一性別、性・年齢別

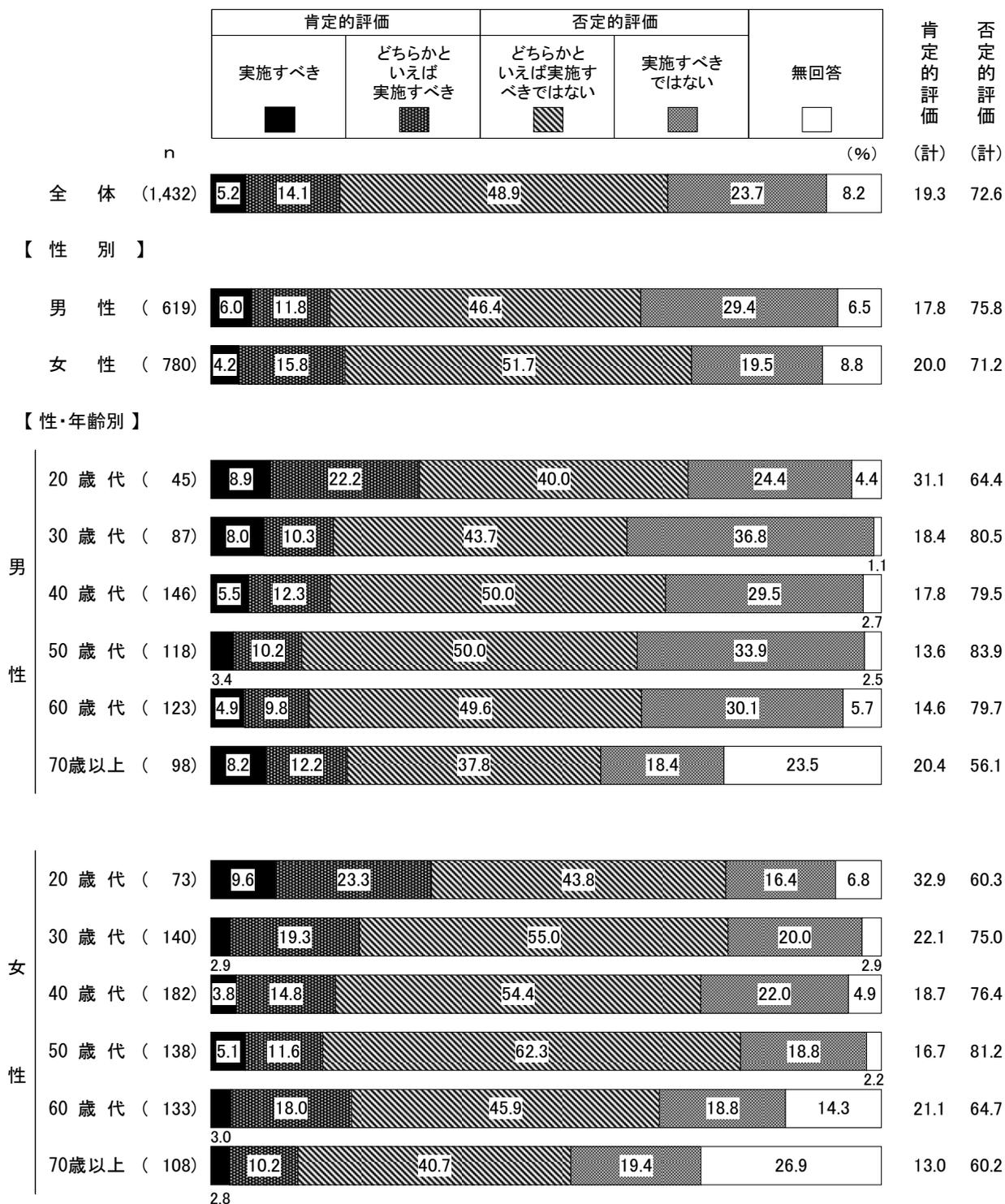


性・年齢別にみると、『肯定的評価』は男性30歳代でほぼ7割、男性の40歳代と70歳以上、女性50歳代で6割半ばと多くなっている。『否定的評価』は男性20歳代と女性30歳代で4割台と多くなっている。

(図 2-5-4)

図 2-5-5 公共施設の老朽化問題についての考え

(4) 現在の施設を維持するために、他の行政サービスの予算を削る—性別、性・年齢別



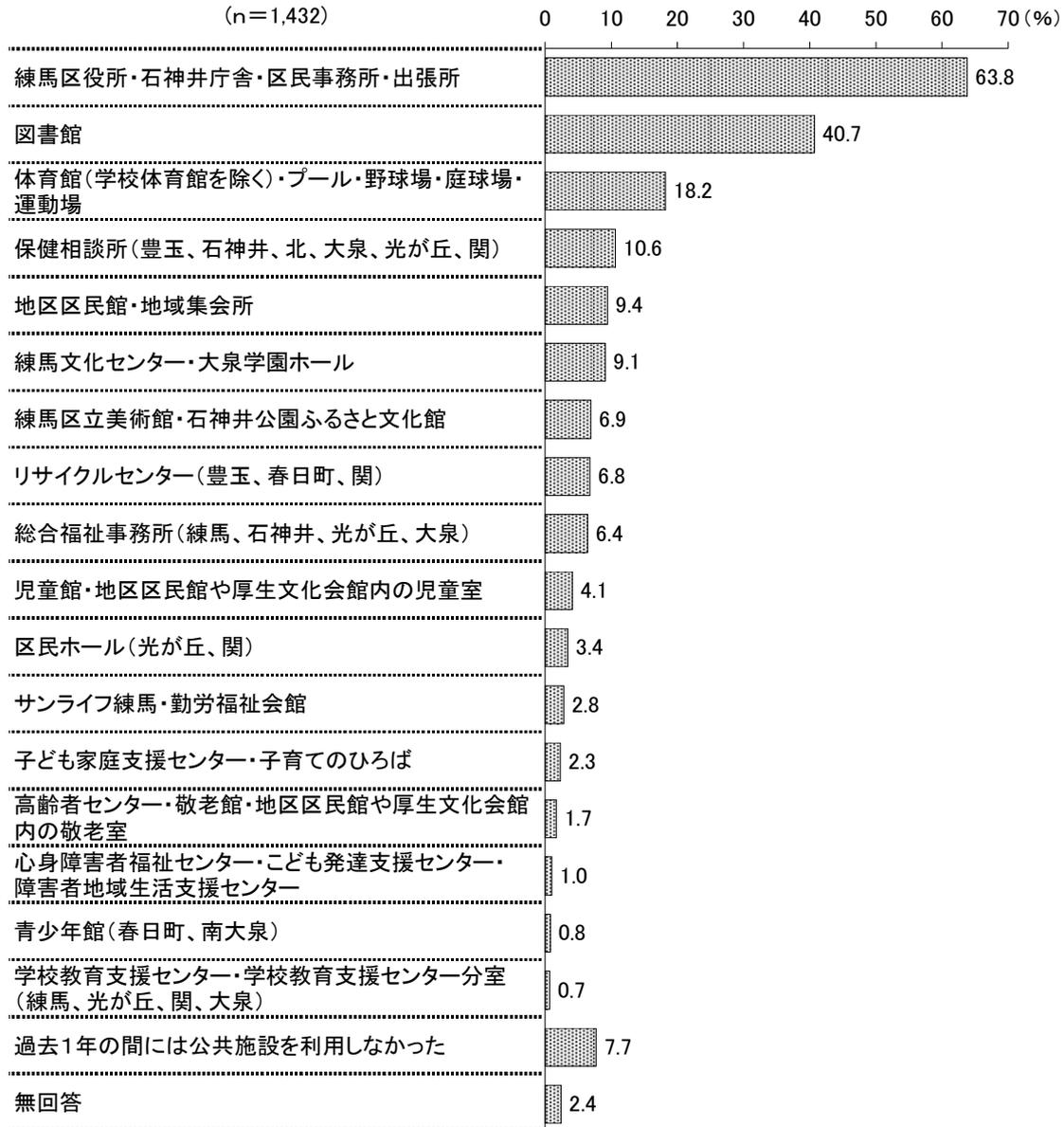
性・年齢別にみると、『肯定的評価』は男女ともに20歳代で3割を超えて多くなっている。『否定的評価』は男性の30歳代と50歳代、女性50歳代で8割台と多くなっている。(図2-5-5)

(6) 過去1年間に利用した区立施設

◇「練馬区役所・石神井庁舎・区民事務所・出張所」が6割を超える

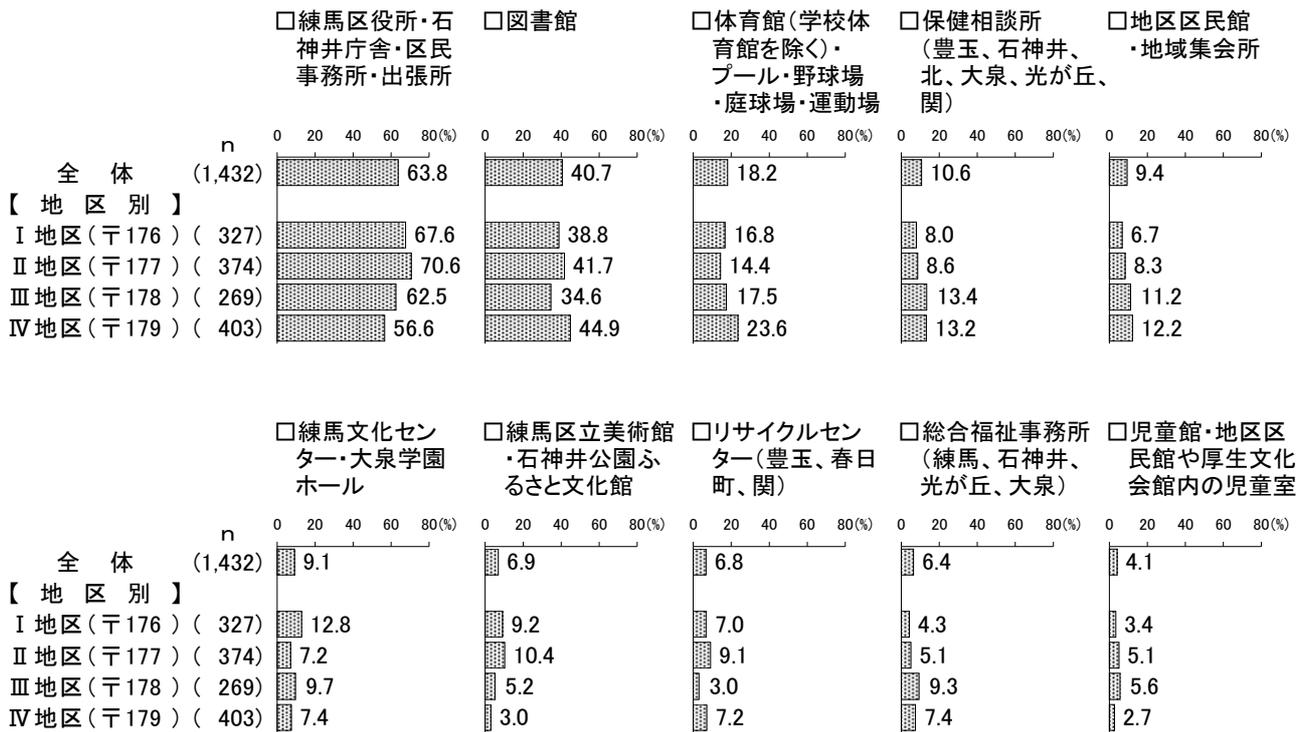
問22 あなたが過去1年の間に利用した練馬区立の施設の中で利用回数の多かった施設を選んでください。(〇は3つまで)

図2-6-1 過去1年間に利用した区立施設



過去1年間に利用した区立施設を聞いたところ、「練馬区役所・石神井庁舎・区民事務所・出張所」(63.8%)が6割を超えて最も多く、次いで「図書館」(40.7%)、「体育館(学校体育館を除く)・プール・野球場・庭球場・運動場」(18.2%)、「保健相談所(豊玉、石神井、北、大泉、光が丘、関)」(10.6%)などの順になっている。(図2-6-1)

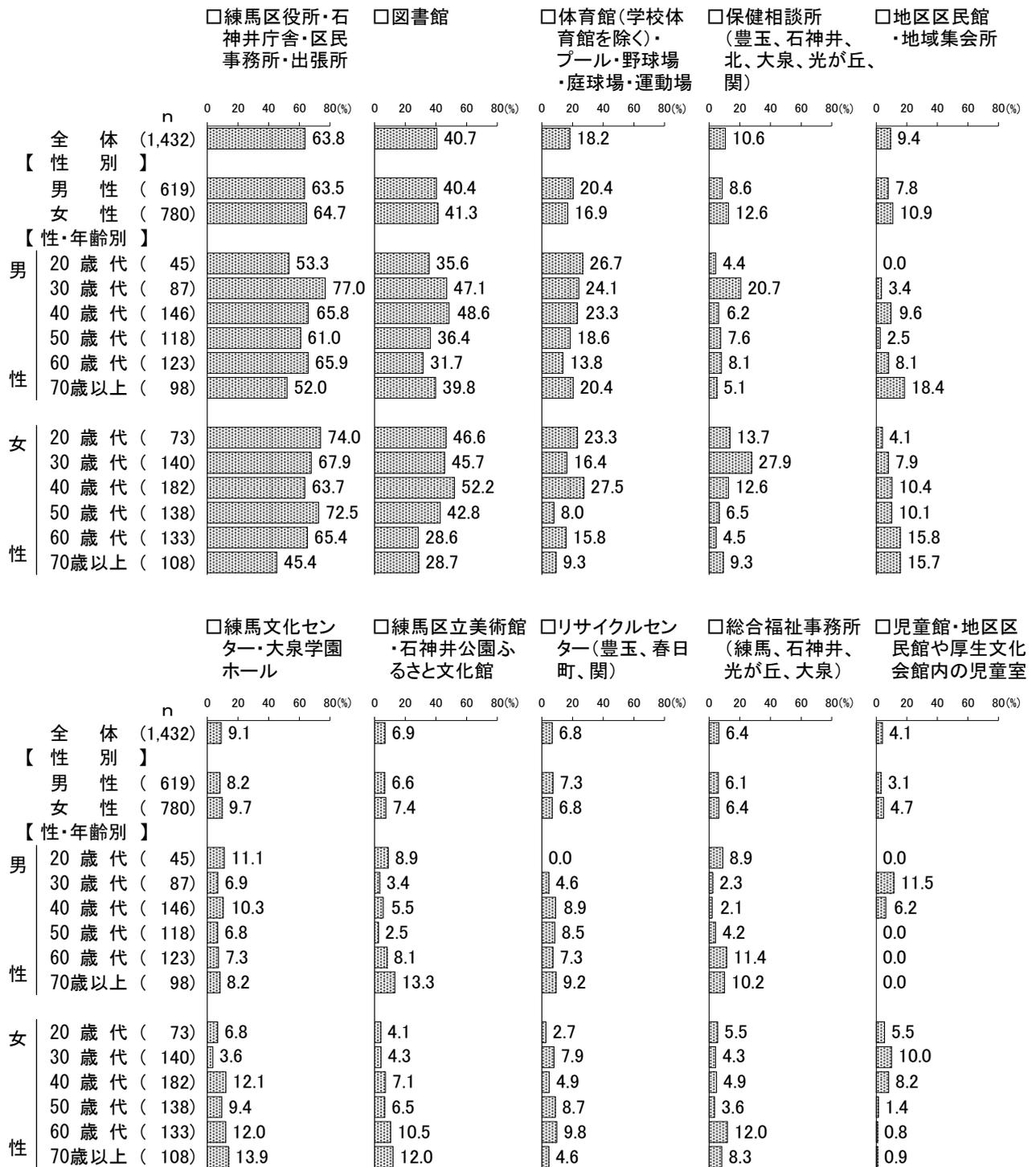
図 2-6-2 過去 1 年間に利用した区立施設（上位10項目）－地区別



地区別にみると、「練馬区役所・石神井庁舎・区民事務所・出張所」はII地区（〒177）でほぼ7割と多くなっている。「図書館」はIV地区（〒179）で4割半ばと多くなっている。「体育館（学校体育館を除く）・プール・野球場・庭球場・運動場」はIV地区（〒179）で2割を超えて多くなっている。

(図 2-6-2)

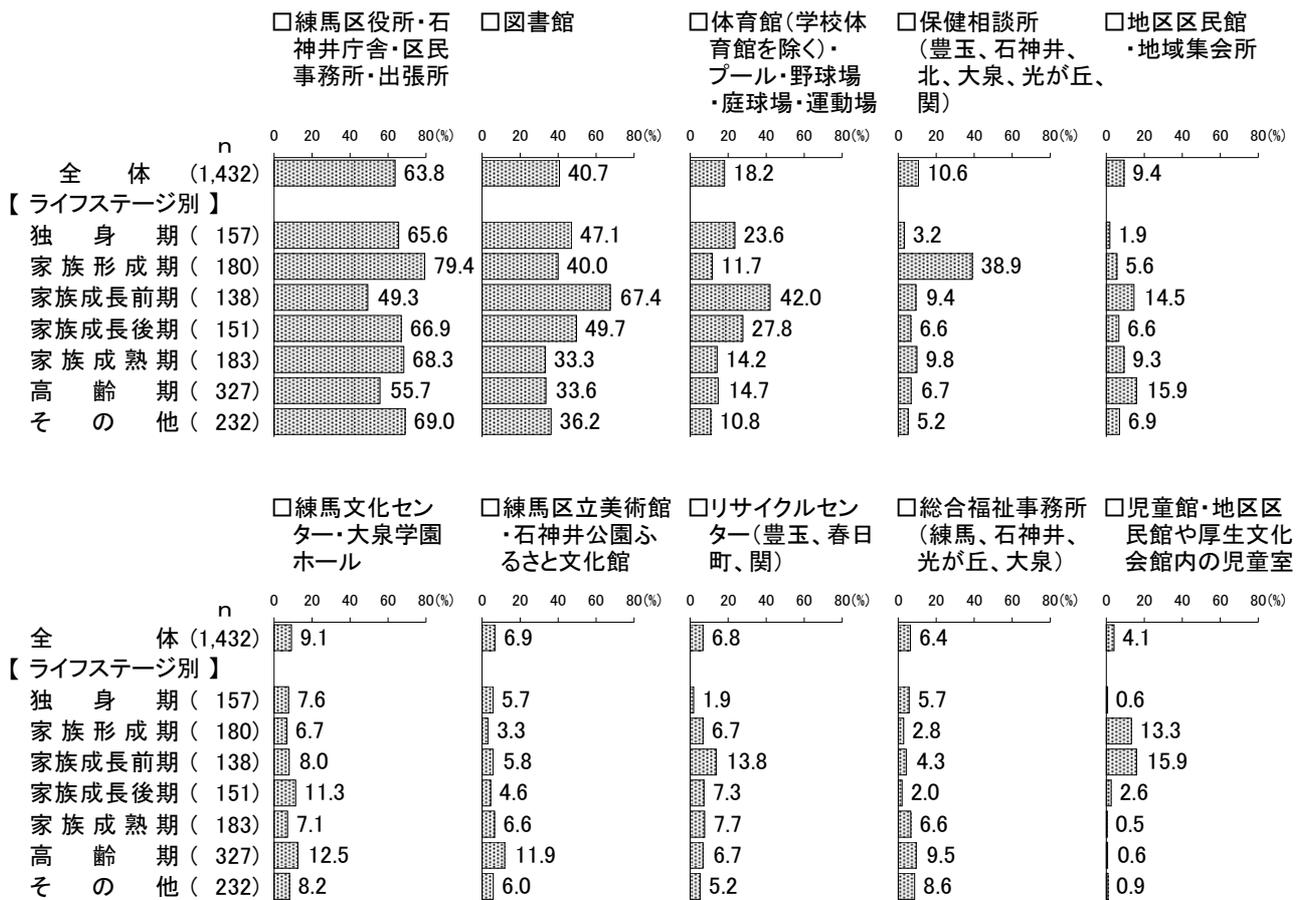
図2-6-3 過去1年間に利用した区立施設（上位10項目）－性別、性・年齢別



性・年齢別にみると、「練馬区役所・石神井庁舎・区民事務所・出張所」は男性30歳代で8割近く、女性20歳代で7割半ばと多くなっている。「図書館」は女性40歳代で5割を超えて多くなっている。

(図2-6-3)

図2-6-4 過去1年間に利用した区立施設（上位10項目）－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「練馬区役所・石神井庁舎・区民事務所・出張所」は家族形成期でほぼ8割と多くなっている。「図書館」は家族成長前期で7割近くと多くなっている。「体育館（学校体育館を除く）・プール・野球場・庭球場・運動場」は家族成長前期で4割を超えて多くなっている。「保健相談所（豊玉、石神井、北、大泉、光が丘、関）」は家族形成期で4割近くと多くなっている。

(図2-6-4)